

住みよい下大野

第52号

令和7（2025）年3月15日発行

下大野市民センター内 「住みよい下大野をつくる会」

311-1131 水戸市下大野町 6094-1 Tel 029-269-1288

p.1 お月見会

p.2 下大野ササコまつり

p.3 スポーツフェス／津波ハザード避難訓練／常澄駅前の電飾／散歩して子供を守ろう／編集後記

p.4 下大野風土記（下大野村役場と白鳥沼干拓紛争—その1）／編集部

昨年に続き、令和6年9月19日に、三世代交流お月見会が下大野市民センターで開催されました。

開会后、屋外ステージ上において、下大野小学校児童6名および指導・協力者の方がたによる大野みろくばやしが演奏され、日頃の稽古の成果が披露されました。

間もなく、三浜豊年踊りの輪ができ、参加者の皆さん楽しまれておられました。

屋内学習室では、飛田邦夫さんの指導により俳句・川柳を詠む会が開かれ、参加者の皆さんそれぞれに取り組まれていました。

並行してホールでは久保田 猛司&ブルーナイツによるどこか懐かしい曲目が演奏され盛会でした。

最後に水戸高等特別支援学校生徒による合唱が披露され、閉会となりました。

今回、準備・運営に携わっていただきました皆様、大変お世話になりました。感謝申し上げます。（鴨志田）



下大野サ皆コーまつり



11月24日(日)「下大野サ皆コーまつり」が下大野市民センターで行われました。

晴天にも恵まれ多くの来場者で賑やかなお祭りとなりました。

お祭りは単なる娯楽ではなく、地域の思いや願いに触れ、生きる喜びを分かち合い、地域社会との繋がる場所。その営みに、また、たくさんの人を引き寄せ、知られる場所となり、お祭りを通して今を語り継ぎ、知恵を集め、新しきことを生み出すきっかけになればと思います。



また、お祭りは地域の人々が一堂に集まる場でもあり、イベントのために地元の人々が協力し、おまつりを盛り上げるために力を合わせる姿は、地域の結束力や連帯感を感じることができます。地域の絆を感じることができるのも、お祭りの魅力の一つです。

皆コーまつりは、いつも地域のぬくもりを感じられるお祭りですね。屋外では多くの模擬店が出店。心から温まる食事や、小さい子たちが楽しめる昔ながらの綿あめ、水ヨーヨー、水戸高等特別支援学校手づくりバザー、保健推進員による血圧・握力測定、困ったときのロープワークも出店。今年も、ホールインワンコンテスト、合気道模擬演技、健康体操、下大野小学校みろくばやし、大野みろく保存会の皆さん方の普段の練習の成果披露のほか、マーチングバンドパフォーマンスグループが大勢の観衆の目を楽しませました。



室内ホールでは、下大野小学校、常澄中学校、水戸高等特別支援学校の児童・生徒の作品展、下大野名物ななめ川柳、書道クラブ・一般参加作品、県立産業技術短期大学校IT技術紹介がありました。多くの皆様が展示に見入り、先進技術に感心していました。見逃された方は残念でした。



学習室では、つるし雛、ちりめんクラブによる手作りの作品の展示、図書コーナーでは、フラワーアレンジメントクラブの作品は、いつもながらぬくもりが感じられる展示でした。最後には、恒例のまき餅があり、多くの方々のご賛同をいただいたいつも以上のまきもので、皆さん袋にいっぱいのお土産を手に入れていました。



お祭りの魅力は、単なるイベントの賑わいや盛り上がりだけではなく、文化や伝統の継承を通じて、地域の歴史や価値観を感じることにあります。ぜひ、お祭りに参加して、その魅力を存分に味わってみてください。皆コーまつりは、地区会の役員さん、多くの賛同者の皆様のご協力いただき、おもてなしが沢山詰まったおまつりなのです。お疲れ様でした。(NO)



スポーツフェス

10月13日(日)に第2回スポーツフェスを常澄健康管理トレーニングセンターにて開催しました。屋外会場ではグランドゴルフ体験が晴天の下行われ、屋内会場では体力測定の種目やニュースポーツをはじめ多数の種目が賑やかに実施できました。

これもひとえに地域の実行委員会の方々や中学生ボランティアの生徒達の協力のおかげと感謝申し上げます。親子連れや高齢者の方など、下大野地区の様々な方が楽しみながらスポーツに取り組んでいるようでした。



その中でも、長座体前屈やユニカールで親より良い成績を出してとても喜んでいる小学生の笑顔が特に印象に残りました。最後に実施されたパン選び競走やお菓子釣り体験では、参加者だけでなく役員の皆様にも参加して頂き、全員参加のイベントにすることが出来ました。

また、参加者の中には、昨年配布したスポーツ&健康手帳を持参してくれた方がいて、1年間大切に保管してくれたことがとても嬉しくなりました。そして『また来年も是非持参して、自分の記録に挑戦して下さい。』と伝えました。



最後になりましたが、このイベントを通して日々の体力維持やスポーツの楽しさを再確認するだけでなく、地域の住民同士や親子などの親睦を深めるきっかけとなれたら幸いです。(後関正弘)

津波ハザード避難訓練

11月10日(日)水戸市津波ハザード避難訓練が下大野市民センターで開かれました。

水戸市防災・危機管理課、消防、警察、津波浸水想定区域の住民による避難の方法の確認が本番さながらに行われました。

午前9時に模擬開始。南海トラフ巨大地震発生に伴う避難指示を防災行政無線、防災ラジオ、SNSで発令。同時刻に消防団の避難呼びかけ・警察の交通誘導が行われました。

避難困難者の救出は、社会福祉協議会の車いすに座ったまま乗車できる介護専用の車で、市民センターまでの移送が行われました。



午前10時から市民センターホールで津波に関する情報提供を、水戸市防災・危機管理課の担当者から、スクリーンを使った説明をいただきました。

10時30分からは、場所を変えて、自衛隊、水戸市消防本部のドローンにより、逃げ遅れた住民がいないかの搜索が行われました。当日はNHK水戸放送局により取材と報道がなされました。

緊急避難場所(県立水戸高等特別支援学校、県立産業技術短期大学校及び常澄駅)へ避難後は、下大野市民センターへ集まる手順となっています。(NO)

常澄駅前の電飾

常澄駅前の植え込みロータリーのイルミネーションが、定番になりつつあります。12月にリニューアルされ、今年で2年目となりました。

以前は暗くて少し寂しい感じだった広場が、今ではホッと一息つける癒しのスポットに変わっています。お世辞にも豪華とは言えませんが、環境に優しいソーラーパネルで電力を供給しているので、その点をご理解いただければ嬉しいです。

散歩して子供を守ろう

昔々、学校までの道にはいろいろな思い出が詰まっていた。でも今は危険がいっぱいです。「変な人」もいます。だから、地域の大人に子どもたちを守ってもらいたいのです。

守るといっても、たまに近所を散歩して貰えばいいのです。

今年も13人の有志の皆さんに「子ども見守り隊」をお願いしています。仲間になりませんか?

慶事・弔事

永らく「住みよい下大野を作る会」の会長を務められた江口孝史さんが、2月28日に開催された「第29回水戸市民の集い」において「退任地区会長ほう賞」を受賞されました。同時に、小泉町内会も「市民清掃功労団体ほう賞」を受けています。

なお、江口氏は昨年10月に逝去されています。ご冥福を。

編集後記

令和7年も始まり、住みよい下大野広報紙に地域の行事等の詳細など情報を伝えて、下大野の人達に手にとって見てもらえるように、これからも広報部一同頑張っていきます。(YY)

下大野風土記 (下大野村役場と白鳥沼干拓紛争 — その1)

明治 22 年 4 月 1 日市町村制が布かれ、初代村長には小泉の佐藤翁介氏が就任しました。ついで、役場をそれまで下大野の白土義守氏宅にあった旧 8 ヶ村連合戸長役場を大字小泉 25 番地に移したと旧記にあります。

その後も役場は村長が替る毎に移転したが、雨貝三郎次村長時の明治 40 年には同 26 番地の建屋を借り上げて執務したとあります。明治 44 年、役場が手狭だったことや常に小泉地区に役場があることなどに不満の議員から、役場建設の論議が起りました。



この様子が大正元年(1912年)12月6日付の『いはらき』新聞に載っています。

「下大野村役場は、従来大字小泉、小泉清七方を借受け居りしが、昨年 11 月中之を新築すると共に之を移転せんと議起りしに、大字塩ヶ崎の久保田松治氏は其所有地を敷地に寄付せんことを申出でしも小泉選出の議員は之に反対せし為、上大野村横須賀園太郎氏仲裁の労を取り、兎に角一ヵ年間之を延期することとなりしに、昨今に至り又々塩ヶ崎派議員より之を提議し、交渉を開始せりといふ」と報じています。

これによると、新築移転を期に役場を塩ヶ崎地区に移転しようとした同地区選出議員と現状維持を主張する小泉選出派に確執が生じ、仲介人の斡旋により役場新築移転を一年間延期することで妥協を図りました。しかし、その後も両派の争いが絶えないので、同 6 年 12

月 9 日に中妻湊分署長と佐藤磯浜巡査部長等が調停に乗り出しました。その結果、大字川又の柴田豊松氏が所有地を役場敷地として寄贈するという妥協案が成立しました。その敷地の様子を、大正 2 年度「下大野村会議決書綴」でみると次のようです。

＊ 下大野村大字塩ヶ崎字三長田 2855 番

一、田 4 畝 5 歩の内 60 坪(分割)

同 所 字同上 2856 番

一、田 4 畝 27 歩の内 60 坪(分割) 右地所の内 120 坪下大野村役場敷地とし、本村大字川又柴田豊松氏より地主と売買契約承諾書相添い且つ地面より高さ 2 尺 5 寸埋め立て寄付致し候旨、願ひ出により本村会に提出する所以なり

大正 2 年 4 月 26 日提出

下大野村長 雨貝三郎次

＊ これで決まりに見えた役場建設問題は、その後、白鳥沼干拓問題(次号掲載)を絡み、大正 3 年には村長の辞任まで引き起こし、次の村長飛田徳次郎氏の大正 3 年 10 月に、佐藤魁介氏の敷地提供ということで、ようやく解決を見たとあります。そのことを「大正 3 年綴」で見ると次のようにあります。

＊ 本村役場敷地寄付受領の件土地寄附願出に付受領せんとす東茨城郡下大野村大字小泉地内字南の前 219 番畑反別 1 畝 23 歩同上 213 番畑反別 1 反 1 畝 24 歩以上 2 筆の内別紙図面の通り指定の場所 105 坪

大正 3 年 5 月 2 日提出

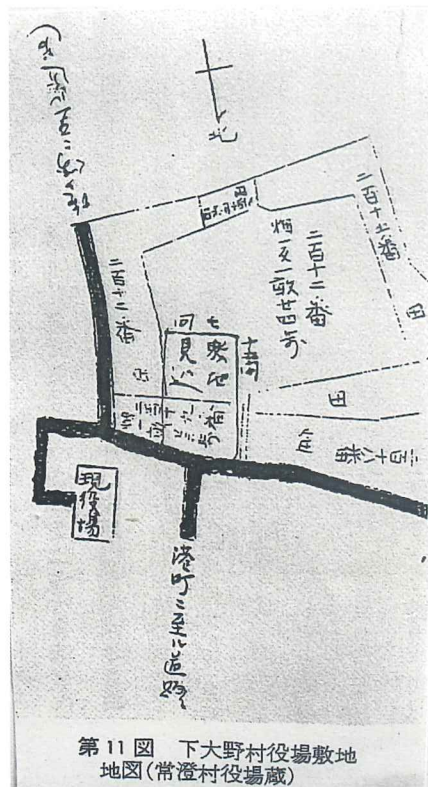
下大野村長職務管掌

東茨城郡書記 森 孝

こうした経緯によって、大正 4 年 2 月には 1,200 余円の総工費を持って、当時東茨城郡内一といわれた庁舎の完成を見たとあります。

この役場新築移転問題について、大正 4 年度の同村「議決文書綴」では、特殊事件として

「前年中茲に特筆すべき重要な 2 大事件あり、其一は本村役場敷地の決定並びに役場新築問題なりしか、多年その利害関係に付、村内両派に分し、自治行政上に頗る影況を及したるも、時世の進運に従い相互に譲歩の上円満なる解決を得て、その敷地を決定し、同年 10 月新築工事を起工し、本年 2 月落成を告げ、茲に多年の軋轢を一掃して平和の間に御大礼事業の記念として本庁舎を建築したるは、誠に慶賀の至りなり」と記しています。



下大野村役場は、その後、昭和 30 年 3 月 31 日、三ヶ村合併常澄村発足の日まで下大野の中核としてその機能を果たしました。

(飛田邦夫)

編集部員

市毛精彰・吉川正弘・後関圭子・田口博文・荻谷信之・栗原一則・鴨志田文雄・吉川康範・吉川勲
※ 文章を書く事に興味がある方、地区広報に参加しませんか。市民センター窓口まで問い合わせを。